

S M C 金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain S M C 豊島 健治

1月の金融・マーケット動向

危機の本質

2月危機とか3月危機が囁かれてスタートした金融市場は、メディアから流される危機説に敬意を表して(?)円安・株安・債券安のトリプル安の方向に進んでいるように見える。確かに悪いデータ、悪い情報が多すぎる。年明け以降の3週間で公開会社が4社も倒れ、今年は昨年以上に企業倒産も多発しそうだ。最悪のシナリオ(キャピタルフライト=資本逃避による円暴落、金利暴騰)を説く人も増えてきた。果たして危機は現実化するのだろうか。あるいは、既に危機状態にあるのだろうか。

この危機の本質は、作家の村上龍氏が指摘しているように「信用が何よりも大切なはずの金融機関、それに政府が、国民から信用を失っていることにある」と私も思う。とすれば、信用の回復以外に危機の克服はない。それは可能なのだろうか。かなり難しそうにも思える。

それを判断する材料は金融市場にある。何よりも重要な鍵を握っているのは株式市場である。株価が発するメッセージをどう受け止めるか。

私個人の予測を云わせて貰うと、株価は力強さに欠けるものの上昇基調に向かうと考えている。その理由として、第一は悲観論が多数を占めてきたこと、第二はその中で覚悟を決める人達が多くなっていること、第三は変革の芽は確実に育っていることが挙げられる。データや数値は過去の結果であることが多いが、信用回復に最も重要なのは私達の心の在り様ではないだろうか。

国内企業の不良債権ファンド

今まで外国勢の独壇場であった不良債権投資の世界に、店頭上場のレーサムリサーチ社が国内の投資家を販売対象にした不良債権ファンドを組成して参入すると伝えられた。

不良債権ファンドは、都銀や地銀から不良債権を買取り、より高く売却して果実を投資家に配当するのが基本スキームであるが、国内勢の登場により今後不良債権売買がより活発化するものと思われる。

銀行4グループの時価総額

4大銀行グループの株式時価総額の格差が拡大している。下表は1年前との時価総額対比表で

あるが、三菱東京FGを除いて、ひどい落ち込み様である。信用回復にどうする大手銀行!

	2000年末	2001年末	減少率
UFJ	3.8	1.4	63.0%
みずほ	6.5	2.5	62.3%
三井住友	6.5	3.2	51.4%
三菱東京	6.5	5.0	22.6%

(金額単位:兆円)

増資と格下げ

地銀大手足利銀行の第2回第三者割当増資の引受先が12,055先となったという。総額300億円というから1先当り平均で2,500千円弱となり、第三者割当増資としては正にギネスブック物で「オール栃木」の色彩が濃い。

果たしてこの増資は成功と云えるのだろうか。これで栃木県の企業・地公体は足利銀行と運命共同体であるというメッセージを内外に伝えることとなった。折しも今週21日格付会社ムーディーズは、地方銀行5行(足利、北海道、紀陽、福岡シティ、北陸)の期間1年未満の短期預金格付けを、「満足できる払い戻し能力がある」レベルから「適格な払い戻し能力が認められない」レベルへと引き下げ衝撃を与えた。「預金不適格」の烙印を押された訳だが、地域銀行の行く末の難しさを暗示しているように思えた。

こんな増資策、あり?

熊本県信組が驚天動地の資本増強策を打ち出した。この3月末に300人いる職員全員を一旦退職させ、退職金を9億7千万円支払う。その上で再雇用を希望する職員に退職金全額を同信組に出資して貰うという。これによって6億円の資本増強を図る予定らしいが、職員の気持ちはいかにばかりだろうか。

何だか職員の弱み(何処へも転職できないだろう?)につけ込んだ資本増強策にも見え、厭らしく感じるのは私だけではないだろう。

MMFの中身

経営破綻したエンロン債組み入れでMMFの元本割れが発生し、ペイオフ後の最有力商品であったMMFの信用が失墜した。その課程で、MMFに銀行劣後債がかなり入り込んでいることが判明した。正直云って、MMFが銀行劣後債の受入口になっているとは思ってもよらなかった。金融の暗部を見せられた思いがした。

Weekly Fax Report

2002.1.26(第293号)

《転載・複製等のご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/ Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp